

ミクロ経済学I演習 第4回 解答

作成日 | 2017 年 5 月 10 日

問題 1

(1) 支出最小化問題：

$$\begin{aligned} \min_{\mathbf{x} \in \mathbb{R}_+^2} \quad & \mathbf{p}\mathbf{x} \\ \text{s.t.} \quad & \sqrt{x_1} + \sqrt{x_2} \geq u \end{aligned}$$

$u = 0$ なら $\mathbf{x} = 0$ が解である。以下では $u > 0$ のときを考える。

解が内点になることの証明。 解が $\mathbf{x}^* = 0$ であるとする。このとき $u(\mathbf{x}^*) = 0 < u$ となり、制約を満たさないで矛盾。

ある $i = 1, 2$ について $x_i^* = 0$ であるとする。 $\mathbf{x} = 0$ は解ではないので $x_j^* > 0$ でなければならない。また、 \mathbf{x}^* は解なので $u(\mathbf{x}^*) \geq \bar{u}$ を満たしている。ここで、 \mathbf{x}' を以下のように定義する。

$$\begin{aligned} x'_i &= \varepsilon \\ x'_j &= x_j^* - \frac{2p_i}{p_j}\varepsilon \end{aligned}$$

$f(\varepsilon) \equiv u(\mathbf{x}') - u(\mathbf{x}^*)$ とすると、

$$f(\varepsilon) = \sqrt{\varepsilon} + \sqrt{x_2^* - \frac{2p_i}{p_j}\varepsilon}$$

と書ける。 f を ε で微分すると、

$$f'(\varepsilon) = \frac{1}{2\sqrt{\varepsilon}} - \frac{2p_i}{p_j \sqrt{x_2^* - \frac{2p_i}{p_j}\varepsilon}}$$

$\varepsilon \rightarrow 0$ とすると、 $f'(\varepsilon) \rightarrow +\infty > 0$ となるので平均値の定理よりある $\varepsilon' \in (0, \varepsilon)$ が存在して、 $f(\varepsilon) = f(0) + f'(\varepsilon)\varepsilon > 0$ を満たす。よってこのような ε' に対して $u(\mathbf{x}') > u(\mathbf{x}^*)$ が成り立つ。さらに、

$$\mathbf{p}\mathbf{x}' = p_i\varepsilon + p_j \left(x_j^* - \frac{2p_i}{p_j}\varepsilon \right) = p_j x_j^* - p_i\varepsilon < p_j x_j^* = \mathbf{p}\mathbf{x}^*$$

となるので \mathbf{x}^* が支出最小化の解であることに矛盾する。 □

クーンタッカーの十分条件より、クーンタッカー条件を満たす \mathbf{x}^* が解である。ラグランジュ関数は、

$$L = -\mathbf{p}\mathbf{x} - \lambda(u - u(\mathbf{x}))$$

である。クーンタッカー条件は、

$$-p_i + \lambda^* \frac{1}{2\sqrt{x_i^*}} = 0, \text{ for all } i = 1, 2 \quad (1)$$

$$\lambda(u - u(\mathbf{x}^*)) = 0 \quad (2)$$

となる。(1) より、

◀ $x_i^* > 0$ に注意.

$$\lambda^* = 2p_i \sqrt{x_i^*} > 0$$

である。すると (2) より $u - u(\mathbf{x}^*) = 0$ が従う。さらに、

$$\begin{aligned} 2p_1 \sqrt{x_1^*} &= \lambda^* = 2p_2 \sqrt{x_2^*} \Rightarrow \sqrt{x_2^*} = \frac{p_1}{p_2} \sqrt{x_1^*} \\ \Rightarrow x_2^* &= \left(\frac{p_1}{p_2}\right)^2 x_1^* \end{aligned} \quad (3)$$

となるのでこれを $u(\mathbf{x}^*) = u$ に代入して、

$$\begin{aligned} \sqrt{x_1^*} + \sqrt{x_2^*} &= \sqrt{x_1^*} + \frac{p_1}{p_2} \sqrt{x_1^*} = u \\ \Leftrightarrow \frac{p_2 + p_1}{p_2} \sqrt{x_1^*} &= u \\ \Leftrightarrow x_1^* &= \left(\frac{p_2 u}{p_2 + p_1}\right)^2 \end{aligned}$$

(3) より、

$$x_2^* = \left(\frac{p_1}{p_2}\right)^2 \left(\frac{p_2 u}{p_2 + p_1}\right)^2 = \left(\frac{p_1 u}{p_2 + p_1}\right)^2$$

となる。

(2) (3) の結果を $\mathbf{p}\mathbf{x}^*$ に代入して、支出関数 $e(\mathbf{p}, u)$ は

$$\begin{aligned} e(\mathbf{p}, u) &= p_1 \left(\frac{p_2 u}{p_2 + p_1}\right)^2 + p_2 \left(\frac{p_1 u}{p_2 + p_1}\right)^2 \\ &= \left(\frac{(\sqrt{p_2} + \sqrt{p_1})\sqrt{p_1 p_2} u}{p_2 + p_1}\right)^2 \end{aligned}$$

問題 2

- (a) (5) 証明. (\mathbf{p}, u) の下での支出最小化問題の解を $\mathbf{x}^h(\mathbf{p}, u)$ とする。支出最小化問題の制約は $u(\mathbf{x}) \geq u$ なので \mathbf{p} について不変である。よって価格が $t\mathbf{p}$ になっても制約は変わらない。するとこの下で $t(\mathbf{p} \cdot \mathbf{x})$ を最小にする \mathbf{x} は $\mathbf{x}^h(\mathbf{p}, u)$ に等しくなる。したがって支出関数は

$$e(t\mathbf{p}, u) = t\mathbf{p}\mathbf{x}^h(t\mathbf{p}, u) = t\mathbf{p}\mathbf{x}^h(\mathbf{p}, u) = te(\mathbf{p}, u)$$

を満たすので \mathbf{p} について 1 次同次である。

□

- (6) **証明.** 任意に $\mathbf{p}^0, \mathbf{p}^1 \in \mathbb{R}_{++}^n$ を選び, $(\mathbf{p}^0, u), (\mathbf{p}^1, u)$ の下での支出最小化の解をそれぞれ $\mathbf{x}^0, \mathbf{x}^1$ と表記すると, 任意の $t \in [0, 1]$ と $u(\mathbf{x}) \geq u$ を満たす任意の $\mathbf{x} \in \mathbb{R}_{++}^n$ に対し,

$$e(\mathbf{p}^0, u) = \mathbf{p}^0 \mathbf{x}^0 \leq \mathbf{p}^0 \mathbf{x}$$

$$e(\mathbf{p}^1, u) = \mathbf{p}^1 \mathbf{x}^1 \leq \mathbf{p}^1 \mathbf{x}$$

が成り立つ. \mathbf{x}^* を $(t\mathbf{p}^0 + (1-t)\mathbf{p}^1, u)$ に対する支出最小化の解とすると, $u(\mathbf{x}^*) \geq u$ を満たす. よって上の 2 式から,

$$e(\mathbf{p}^0, u) = \mathbf{p}^0 \mathbf{x}^0 \leq \mathbf{p}^0 \mathbf{x}^* \quad (4)$$

$$e(\mathbf{p}^1, u) = \mathbf{p}^1 \mathbf{x}^1 \leq \mathbf{p}^1 \mathbf{x}^* \quad (5)$$

が成り立つ. (4) の両辺を t 倍, (5) の両辺を $(1-t)$ 倍したものを足し合わせると,

$$\begin{aligned} te(\mathbf{p}^0, u) + (1-t)e(\mathbf{p}^1, u) &\leq t\mathbf{p}^0 \mathbf{x}^* + (1-t)\mathbf{p}^1 \mathbf{x}^* = (t\mathbf{p}^0 + (1-t)\mathbf{p}^1) \mathbf{x}^* \\ &= e(t\mathbf{p}^0 + (1-t)\mathbf{p}^1, u) \end{aligned}$$

となる. したがって支出関数は凹関数である. □

(b) 支出関数

$$e(\mathbf{p}, u) = \left(\frac{(\sqrt{p_2} + \sqrt{p_1})\sqrt{p_1 p_2} u}{p_2 + p_1} \right)^2$$

について考える. 任意の $t > 0$ について, 支出関数に含まれる各財の価格を t 倍すると, 全ての財の価格を $t > 0$ 倍すると,

$$\begin{aligned} e(t\mathbf{p}, u) &= \left(\frac{(\sqrt{tp_2} + \sqrt{tp_1})\sqrt{tp_1 tp_2} u}{tp_2 + tp_1} \right)^2 = \left(\frac{t^{3/2}(\sqrt{p_2} + \sqrt{p_1})\sqrt{p_1 p_2} u}{t(p_2 + p_1)} \right)^2 \\ &= t \left(\frac{(\sqrt{p_2} + \sqrt{p_1})\sqrt{p_1 p_2} u}{p_2 + p_1} \right)^2 = te(\mathbf{p}, u) \end{aligned}$$

となるので $e(\mathbf{p}, u)$ は \mathbf{p} について 1 次同次.

▶ \mathbf{x}^0 と \mathbf{x}^1 がそれぞれ支出最小化の解であることの定義から.

▶ $u(\mathbf{x}^*) \geq u$ のチェックは重要. $u(\mathbf{x}) \geq u$ を満たさない \mathbf{x} については上記の関係は成り立つとは限らないので.